令和３年度佐世保市『赤ちゃんふれあい(いのちを育む)事業』報告書

門田　理世(西南学院大学)　　中ノ子　寿子(西南学院大学大学院　研究生)
岩渕　善道(西南学院大学大学院生)　渡邊　由恵(九州産業大学)
佐世保市幼児教育センター

Ⅰ．はじめに

佐世保市は平成27年度より、佐世保市幼児教育センターにおいて『赤ちゃんふれあい(いのちを育む)事業』を実施している。本事業は、子育て支援啓発事業の一環として、参加する保護者においては**①親としての喜びを感じる、②自分の子育てを振り返る、③自分の子どもの成長や将来をイメージする、④小学生とかかわることで、地域の一員としての存在を意識する**ことを、小学校の児童(以下、児童)においては**①いのちの大切さ・尊さ・不思議さ、②相手を思いやる気持ち、③自分の家族(親)との関係を考えるきっかけ、④親の思いを知る、⑤将来の子育てを体験する機会となる**ことを目的としている。また、佐世保市教育委員会は、学校・地域・家庭が連携していのちの大切さについて考える取り組みとして、毎年6月を“いのちを見つめる強化月間”、6月1日を“いのちを見つめる日”と定めており、本事業はその取り組みにも寄与するものである。

例年事業は児童と赤ちゃん、その保護者が直接ふれあう対面方式で行われてきたが、令和3年度は新型コロナウィルスの感染対策をしながら事業を継続するために協議が行われ、児童と赤ちゃん、その保護者をオンラインでつなぎ、リモートで交流をすることとなった。本報告書では、令和3年度6月実施のオンラインによる『赤ちゃんふれあい事業』および11月実施のオンラインによる『大きくなったね』(Ⅱ.事業の概要 参照)に参加した保護者、児童それぞれの立場から事業の意義を検証した結果を報告する。

Ⅱ．事業・調査の概要

以下、『赤ちゃんふれあい事業』と『大きくなったね』の両事業と調査に関する概要を記す。

1.事業の概要と調査対象

⑴ 『赤ちゃんふれあい事業』について

【事業概要】 今年度6月に行われた『赤ちゃんふれあい事業』は、幼児教育センターを利用している親子の中から事業への参加を承諾した保護者とその赤ちゃん延べ12組（うち6月21日、24日の両日参加した親子1組）、白南風小学校に通う5年生49名の中から欠席者を除く46名が参加をした（表1）。事業は、児童が事前学習として赤ちゃんの発達やお世話の仕方についての学習をした上で、当日は児童7～8名と親子2組が１グループとなり、オンライン上で赤ちゃん(おおむね6か月～10か月)が遊ぶ様子を見ながら、保護者に子育てや赤ちゃんに関する話を聞いたり、保護者から児童に質問をしたりする形で交流が行われた。また、事業は幼児教育センターがコーディネーターとして運営を行っており、交流では同センター職員がファシリテーターとして児童と保護者をつなぐ役割を担った。

表1. 本事業の実施状況

日時		参加者数	
		親子数	児童数
赤ちゃんふれあい事業	6/21(月)　10：15～11：00	6組	白南風小学校5年1組(23名)
	6/24(木)　10：15～11：00	6組	白南風小学校5年2組(23名)
大きくなったね	11/22(月) 9：45～10：30	6組	白南風小学校5年1組(25名)
	11/25(木) 10：15～11：00	6組	白南風小学校5年2組(23名)

【調査対象】事業に参加した保護者、児童双方に事業の事前・事後でアンケート調査を実施した(報告書末の資料参照)。『赤ちゃんふれあい事業』では、事業に参加した保護者・児童の中から事前・事後アンケートが揃っている保護者延べ12名と、児童46名を分析の対象とした。

⑵ 『大きくなったね』について

【事業概要】11月に行われた『大きくなったね』では、上記『赤ちゃんふれあい事業』と同じ白南風小学校5年生児童48名（欠席者を除く）と、親子延べ12組（うち11月22日、25日の両日参加した親子1組）が参加をして、再度オンライン上で交流を行った（表1）。参加した親子のうち、延べ6組は『赤ちゃんふれあい事業』にも参加した親子であり、6組が『大きくなったね』からの新規参加者であった。事業の内容は『赤ちゃんふれあい事業』と同じ流れで実施され、児童は6月よりも月齢の高い赤ちゃん(おおむね11か月～19か月の赤ちゃん)とオンライン上で交流を行った。

【調査対象】事業に参加した保護者・児童の中から事前・事後アンケートが揃っている保護者延べ11名と、児童48名を分析の対象とした。

2.分析の方法

アンケートの中で選択肢による回答は集計をし、自由記述による回答は、回答内容を表すコードを付して、そのコードをカテゴリに整理・分類する質的分析を行った。以下コードを＜＞、カテゴリを〔　〕、アンケート本文の質問および選択肢を《　》、原文の回答を「　」で表す。

Ⅲ. 調査結果および考察

以下、保護者・児童のアンケート結果および考察を記す。なお、本報告書では事業ごとの成果を見えやすくするため、『赤ちゃんふれあい事業』と『大きくなったね』のアンケート結果をそれぞれの事業ごとに分析した。

1. アンケート回答者の属性

【保護者】『赤ちゃんふれあい事業』における保護者の属性は以下のとおりである。年齢構成は30代の母親が12名中10名で残り2名は40代であり（表2）、参加した赤ちゃんの約5割が第2子（図1）で、第3子目という回答も合わせると今回参加した母親の6割以上が第1子、2子の子育て経験を有している。《日頃小学生とふれあうことがあるか》という問いに対し、《ある》が41.7%、《ない》が58.3%で、平素から小学生とのふれあいがない保護者が半数以上であった。子育てに関する不安が《ある》《少しある》と回答した保護者は全体の41.7%、《ほぼない》《全くない》は58.3%となり、具体的な不安の内容は<きょうだい児の平等な扱いに関すること>や<仕事や家事の時間配分>等があった。

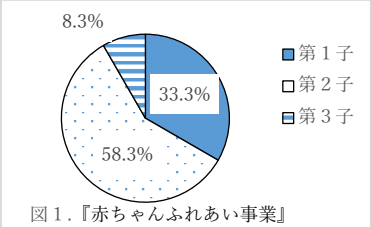

図１.『赤ちゃんふれあい事業』に参加した赤ちゃんの出生順位

表2. 『赤ちゃんふれあい事業』保護者の年齢(延べ人数)

保護者の年齢	単位：人数
20 歳代	0
30 歳代	10
40 歳代	2
合計	12

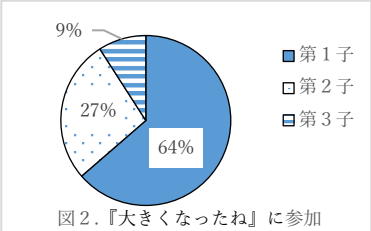

図２.『大きくなったね』に参加した赤ちゃんの出生順位

表3. 『大きくなったね』. 保護者の年齢(延べ人数)

保護者の年齢	単位：人数
20 歳代	2
30 歳代	7
40 歳代	2
合計	11

『大きくなったね』における保護者の属性は以下のとおりである。年齢構成は30代が最も多く（表3）、30代の参加率82.6%は過去3年の年代別参加者率の中で最も高い参加率であった（表4）。参加した赤ちゃんは約6割が第1子であった（図2）。《日頃小学生と触れ合うことがあるか》という問いに対し、《ある》が18.2%、《ない》が81.8%であった。子育てに関する不安が《ある》《少しある》と回答した保護者は全体の54.5%、《ほぼない》《全くない》は46.5%となり、具体的な不安の内容は<子どもの心身の発達や健康に関すること>や<仕事や家事の時間配分>等があげられた。

表4.過去３年の年代別参加者率（%）

実施年度	20 代	30 代	40 代
平成 29 年度	16.7%	71.7%	11.7%
平成 30 年度	30.6%	67.1%	1.2%
令和元年度	22.7%	76.9%	1.3%
令和３年度	**8.7%**	**82.6%**	**17.4%**

【児童】きょうだい構成(表5)は弟・妹がいる児童が33名、一人っ子が5名と、弟や妹がいる児童が多かった。また、『赤ちゃんふれあい事業』の際に《これまで赤ちゃんとふれあったことがあるか》と尋ねると、《ある》と答えた児童が67.4%となっており、頻度の違いはあるが児童の多くが赤ちゃんとのふれあいを経験したことがあると回答していた。

表5. 児童のきょうだい構成

生まれ順	単位：人数	弟・妹の有無	単位：人数
1 番目	24	有	33
2 番目	16		
3 番目	7		
4 番目	0	無	15
5 番目	1		
その他	0		
合計	48		48

2. 『赤ちゃんふれあい事業』について

(1)保護者が認識する事業参加の意義

『赤ちゃんふれあい事業』に参加した保護者に《この事業に参加しようと思った動機》を選択肢からあてはまる順に3つ選んで回答してもらうと、最も当てはまる項目として《1》がつけられた回答は《楽しそうだったから(4件)》、《わが子にとっていい経験になりそうだったから(2件)》、《小学生の役に立ちたいから(2件)》等が動機としてあげられた。また、事業後に《参加してみて感じたこと》をあてはまる順に上位3つを選んでもらうと、《1》がつけられた回答は《小学生にふれあえてよかった(6件)》、《参加してよかった(4

表6. 保護者が事業に参加して「よかった」と回答した理由 ※一部抜粋

〔カテゴリ〕	<コード>
他者との交流やふれあいへの喜び(7)	**児童とふれあえたから(4)**
	児童や同月齢の子どもとふれあえたから(1)
	交流できて楽しかったから(1)
	ふれあう機会がなかった児童と交流できたから(1)
児童の学びへの貢献(3)	児童がいのちを考える手伝いができたから(1)
	児童の授業の役に立てたから(1)
児童の気持ちや考えの理解(2)	児童の気持ちが聞けたから(1)
	児童の赤ちゃんに対する考えを知れたから(1)
事業参加への肯定的な意識(2)	いい経験になったから(1)
	以前参加していい事業だったから(1)

※(　)内の数字は事例数を表す

件)》等が多く、《事業に参加してよかったか》を尋ねたところ12名全員が《よかった》と回答した。これらの結果から、保護者が事業に《楽しそう》《自身やわが子にとっていい経験になりそう》と期待を持って参加し、事業後実際にオンラインで児童とふれあった経験を肯定的に捉えていることがわかる。次に、参加してよかった理由について保護者の自由記述を分析した結果、6つのカテゴリに分類され(表6)、〔他者との交流やふれあいへの喜び〕が最も多くあげられた。《日頃小学生とふれあう機会があるか》という質問に7名が《ない》と回答していること、「小学生との交流プラス、同じ月齢のお友達とも出会えて、ダブルで交流出来たので良かった」という記述がみられることを加味すると、保護者が事業での経験を、平素ふれあうことが少ない児童や同じ年頃の赤ちゃんと出会う機会として価値づけていることが明らかとなった。新型コロナウィルス感染防止の観点から他者とのふれあいが制限されがちな昨今、このようにオンライン上で距離を保ちつつ児童と赤ちゃん、保護者がつながり、交流を試みる機会の重要性が示唆された。また、《小学生にとって赤ちゃんとふれあうことはいいことだと思うか》を尋ねたところ、11名が《いいこと》、1名が《まぁまぁいいこと》と回答し、全保護者が赤ちゃんと児童のふれあいを児童にとって意義があることと捉えていた。その回答理由を分析したところ、〔命の大切さを学ぶ〕や〔自分や周囲を大事にできる〕、〔優しい気持ちが芽生える〕等があげられており（表7）、保護者は児童が赤ちゃんとふれあうことを命や他者に対する思いやりの涵養につながる大切な機会として重視していることがわかった。

表7. 保護者が考える児童にとって赤ちゃんとふれあうことの意義　※一部抜粋

〔カテゴリ〕	<コード>
命の大切さを学ぶ(3)	赤ちゃんや命の大切さを学ぶ機会になる(3)
自分や周囲を大事にできる(3)	自分や周りの人を大事にすることができる(1)
	きょうだいを大切にする気持ちが芽生える(1)
	相手の気持ちを考えるようになる(1)
優しい気持ちが芽生える(2)	小さい子に優しくする気持ちが芽生える(1)
	優しくなれる(1)
大切に育てられたことを知る(1)	自分も生まれた時から大切に育てられてきたと知る(1)

(2)赤ちゃんとのふれあいがもたらした児童の気づき

《赤ちゃんの様子を見ることができてよかったと思うか》と尋ねると、84.8%が《よかった》、15.2%が《まぁまぁよかった》と回答し、参加した児童全員が画面越しではあっても赤ちゃんの様子を見れたことを肯定的に捉えていることがわかった。その理由を回答した自由記述を分析すると、<赤ちゃんのことが知れた・わかったから>や<将来に活かせるから>等の事業を通して得た〔自分の学びについて〕言及しているものが最も多かった（表8）。また、〔赤ちゃんについて〕述べた回答では、<久しぶりに赤ちゃんを見れた>、<コロナでもリモートで赤ちゃんと会えた>、<日頃会うことがない赤ちゃんに会えた>等の理由が分析から抽出された。《赤ちゃんとふれあったことがあるか》という質問に《ない》が10.9%、《覚えていない》が19.6%と、3割の児童が日頃赤ちゃんとふれあう機会がほぼないと回答していることも踏まえると、児童が赤ちゃんとふれあう機会を貴重な経験と認識している様子が見て取れる。また、児童の回答には「さい近はしんがたコロナウイルスで赤ちゃんとはふれあえてなかった」という記述もあり、コロナウィルス感染拡大の影響で赤ちゃんとふれあう機会が減っている児童もいることが推察される中で、画面越しであっても実際の赤ちゃんの様子を見たり、お母さんから子育ての話を聞いたりする経験がより意義あるものになっていることも示唆された。

表8. 児童が赤ちゃんを見た自身の経験を肯定的に捉えた理由　※一部抜粋

〔カテゴリ〕	<コード>
自分の学びについて(33)	**赤ちゃんのことが知れた・わかった(6)、将来に活かせる(6)**、自分が赤ちゃんの頃のことがわかった(3) 他
赤ちゃんについて(9)	**久しぶりに赤ちゃんを見れた(3)**、赤ちゃんがかわいかった(2)、**コロナでもリモートで赤ちゃんと会えた(2)、日頃会うことがない赤ちゃんに会えた(2)　他**
ふれあい事業について(5)	あたたかい気持ちになった(1)、赤ちゃんを見れて楽しかった(1) 他

3. 『大きくなったね』について

(1)保護者自身の意識の変容

『大きくなったね』に参加した保護者のうち延べ5名は6月の事業にも参加しており、《6月と比較して小学生に変化があったか》という質問に全員が《変化があった》と回答した。《どのような点が変化したのか》を尋ねたところ、「細かな質問、疑問が以前より増えていた。赤ちゃんに興味を持ってくれたように感じた」「子どもを見る視点が変化していた。優しい目、声になっていた」等の記述があり、保護者は児童が複数回赤ちゃんとふれあうことで、赤

表9. 保護者が認識する自己の変化

〔カテゴリ〕	<コード>
我が子に対する意識(4)	**我が子の成長に対する期待(2)、子どもと過ごす将来への明るい希望(1)、我が子の将来に対する安心感(1)**　他
小学生に対する意識(4)	小学生に対する肯定的な印象・感想(2)、**小学生に対するイメージの変容(1)、今後も児童と関わりたいという意欲(1)**

ちゃんに対してより興味を持ち、肯定的な感情を向けるよう変化していると感じていた。また、《事業で小学生とふれあってご自身に変化はありましたか》と尋ねたところ、約7割の保護者が、《変化があった》と回答し、変化した内容の記述は〔我が子に対する意識〕と〔小学生に対する意識〕に分けられた（表9）。保護者は、〔我が子の成長に対する期待〕や〔子どもと過ごす将来への明るい希望〕、〔我が子の将来に対する安心感〕等を感じるように変化しており、この事業で児童とふれあう経験が我が子の将来や今後子どもと過ごす未来への見通しにつながっており、見通しが立つことにより安心感を持つようになったことが伺える。また、児童に対しても「小学生のイメージが変わりました。街やグラウンドで見かける、元気で多少落ち着きがないのかと予想していたのですが小学生はとても礼儀正しくしっかりもので驚きました」という〔小学生に対するイメージの変容〕や、「小学生の考える事、興味をもってくれた事に嬉しくなり、こんごも小学生に関わりたいと思った」という〔今後も児童と関わりたいという意欲〕等の記述もあり、画面越しであっても児童とのふれあいを通して保護者の中で日頃関わることが少ない小学生に対するイメージが肯定的に変容したことがわかった。事業を通して保護者が我が子の将来や成長に明るい希望や期待を持ち、地域の小学生に対して肯定的な印象を持つことは、直接かかわる我が子だけでなく、地域の小学生や子どもに対するあたたかなまなざしや理解につながり、多面的な子育て支援の一助となっていることが伺えた。

⑵ふれあい体験に複数回参加することに対する児童の意識

《6月のふれあい体験の後に赤ちゃんのことが気になるようになったか》という問いに対し、22.9%の児童が《気になるようになった》、37.5%が《気にならない》、37.5%が《どちらともいえない》と回答している(無回答2.1%)。8割弱の児童が《気にならない》《どちらともいえない》と回答しているが、《また赤ちゃんに会えると聞いてどう思ったか》という質問に「気になっていました。会えると聞いて嬉しかったです」、「もっとくわしくいろいろなことを聞こうと思いました」と、ほぼ全員が赤ちゃんに会えることを「うれしい、楽しみ、もっと知りたい」という回答をしていた。また、事業後《お母さんや赤ちゃんに会ってどう感じたか》を尋ねると、「赤ちゃんはちょっとの間でいろんなことができていてすごいと思いました」、「前会った時よりもとても成長していて、ごはんの量も多くなっていたり、ふつうのご飯を食べたりして、成長したな、と思いました」と赤ちゃんの成長や変化を感じ、好意的に受け止める回答が多くあがっていた。このような結果からは、年2回のふれあい事業をきっかけに、日常的に赤ちゃんのことが気になるようになる児童の割合は2割程度ではあるが、継続して親子とかかわることが児童の中で赤ちゃんと再会できる喜び、あるいは赤ちゃんへの興味を喚起することにつながっている可能性が示唆された。

4.オンラインでの交流事業に対する児童・保護者の感想

⑴事業のオンライン開催に対する保護者の意識

保護者にオンラインでの他者との交流に対する馴致の度合いを確認するため《日頃ビデオ通話を使用する頻度》を尋ねたところ、《よくある》《時々ある》が43.5%、《あまりない》《全くない》が56.5%であった。次に、《この事業にまた参加したいか》と尋ねたところ、《参加したい》《まあまあ参加したい》と回答した保護者は『赤ちゃんふれあい事業』『大きくなったね』ともに100%であった。続いて《また参加する場合、事業形態はオンラインと対面のどちらがよいか》の問いに対しては、《対面》と答えた保護者が『赤ちゃんふれあい事業』では100%であったのに対し、『大きくなったね』では83.3%となり、《どちらでもよい》が8.3%、《オンラインで画面越し》が8.3%と意見が分かれる結果となった。そこで、その分かれた意見の詳細を見るために『大きくなったね』で保護者がその事業形態を希望する理由(表10)を分析すると、〔コロナ禍での対面のリスク〕が回答としてあがり、保護者の感染予防に対する意識が見て取れる。〔オンラインでの学びへの理解〕では、オンラインを経ることによる次の対面への期待の高まりや、対面する前に赤ちゃんのことを考えられるといったオンラインで事業を行う長所があげられた。

表10.　保護者が次回参加する場合に希望する事業形態の理由（『大きくなったね』）

〔カテゴリ〕	＜コード＞
ふれあいを求める気持ち⑷	赤ちゃんを感じてほしいから⑵実際にふれあってほしいから⑴実際にふれあいたいから⑴
児童のより良い学び⑷	ふれあうことで赤ちゃんを理解できるから⑵ふれあうと交流が深まるから⑴より楽しく交流できるから⑴
コロナ禍での対面のリスク⑶	コロナ禍ではオンラインの方が安全だから⑴、コロナ禍ではオンラインが安心だから⑴コロナ禍の状況次第⑴
オンラインでの学びへの理解⑶	次回の対面への期待が高まるから⑴対面前に赤ちゃんのことを考えられるから⑴、オンラインの事業でも良いと感じたから⑴
ふれあいの大切さ⑵	実際のふれあいが大切だから⑵

⑵事業のオンライン開催に対する児童の感想

児童に、《日頃ビデオ通話を使用する頻度》を尋ねると、《よくある》《時々ある》が25.5%で《ほぼない》《全くない》が74.5%という回答であった。《今後赤ちゃんやお母さんとふれあうならどうやってふれあいたいか》と尋ねたところ、『赤ちゃんふれあい事業』では《(直接)ふれあいたい》が87.2%《ふれあいたくない》4.3%《わからない》6.4%《無回答》2.1%だった。「大きくなったね」では《対面で》66.7%《オンライン》6.3%《どちらでもよい》16.7%《ふれあいたくない》4.2%《わからない》6.3%であった。理由(表11)を見ると、〔ふれあいを求める気持ち〕において直接赤ちゃんに触ることを希望する回答や、直接触ることができないことから〔オンラインへのネガティブな気持ち〕のような回答が見られた。他方で〔オンラインへの肯定的な気持ち〕のように**コロナ禍においてオンライン事業を許容、ないしは積極的に選ぶべきである**といった意見がオンライン・直接どちらの希望者にも見られた。赤ちゃんについての学びに関しては、〔自分の経験や学び〕で見られるように直接ふれあって赤ちゃんのことについて知りたいという意見も見られる一方、《ふれあいたくない》理由として、〔赤ちゃんへの不慣れ〕をあげており、<赤ちゃんへのふれあい方が分からない>ことが赤ちゃんとの交流に対する消極的な姿勢につながる場合があることが示された。しかし、〔赤ちゃんへの不慣れ〕をあげた児童の中には、《オンラインによるふれあい》を希望する回答があることから、赤ちゃんに慣れるためには、直接ふれあう前にまずオンラインで赤ちゃんのことについて学びたいと思っている児童もいると考えられる。

表11. 小学生が希望する赤ちゃんとのふれあい形態の理由 ※一部抜粋

〔カテゴリ〕	<コード>
ふれあいを求める気持ち(23)	赤ちゃんをだっこしたい(7)赤ちゃんにふれたい(6)赤ちゃんと遊びたい(6)他
自分の経験や学び(17)	赤ちゃんのことを知りたい(10)赤ちゃんの成長を見たい(3)他
オンラインへのネガティブな気持ち(9)	オンラインでは触れられない(3)オンラインでは分からないことがある(3)音声トラブル(2)オンラインより赤ちゃんのことが分かる(1)
オンラインへの肯定的な気持ち(7)	オンラインでも良い(4)感染防止のため(1)見るだけでもかわいい(1)コロナ禍に会うのが申し訳ない(1)
赤ちゃんへの不慣れ(3)	赤ちゃんのふれあい方が分からない(1)赤ちゃんの行動が分からない(1)赤ちゃんと接する機会がない(1)

Ⅳ.まとめと今後の課題

今年度は事業初のオンラインでの事業開催となった。保護者アンケートからは、保護者が事業への参加を通して児童とのふれあいを肯定的に捉え、我が子の将来に見通しを持ったりしていることが明らかになった。児童においても、回答者全員が赤ちゃんの様子を見られたことを肯定的に捉えており、児童が実際の赤ちゃんを見て発達や成長を学び、保護者から子育ての話を聞く経験を意義深いものと認識していることや、『大きくなったね』で親子と継続してかかわることが赤ちゃんと再会できる喜びや赤ちゃんへの興味を喚起するきっかけとなった可能性が示唆された。このように、今回の事業では参加者同士が直接ふれあえないという制約があったものの、アンケートの結果からは保護者、児童各々に参加した成果が得られたことがわかる。また、次回の事業形態の希望を尋ねた質問の回答からは、保護者、児童ともに直接ふれあうことを重視し、「次回は対面で」と望む声が大多数である一方、保護者からはコロナ禍での対面リスクを避ける意識と、オンラインでの学びに対する肯定的な理解が、児童からはコロナ禍である現状からオンライン事業を許容、ないしは積極的に選ぶべきであるといった意見が見られた。オンラインを希望する児童の中には赤ちゃんへの不慣れを理由とする回答もあり、赤ちゃんへの接触に抵抗感がある児童にとってオンラインでの事業は心理的ハードルを下げる可能性もある。今後事業を検討する際にはこれらの意見も参考とし、より良い事業の在り方を模索する必要がある。次年度以降、事業がオンラインとなるか対面になるかは未定であるが、今回オンライン事業の参加者に様々な学びや成果があったことを踏まえると、**どのような形であっても可能な限り事業を継続していくことが佐世保市の子育て支援、児童生徒育成のために肝要**だといえる。

6月実施　『赤ちゃんふれあい（いのちを育む）事業』　アンケート項目

小学生事前アンケート		保護者事前アンケート	
問１	性別、きょうだいの数、自分がきょうだいの何番目か、ビデオ通話の頻度、ビデオ通話に対してどう思うか	問１	年齢、性別、赤ちゃんの月齢、きょうだいの数、第何子か、ビデオ通話の頻度
問２	これまでの赤ちゃんとの触れ合い経験があったか、頻度、触れ合った対象	問２	事業に参加した回数
問３	赤ちゃんと聞いて思い浮かべること（自由記述回答）	問３	小学生とのふれあいの頻度、その内容
問４	赤ちゃんのどんな様子見られると思うか（自由記述回答）	問４	事業に参加しようと思った動機
問５	赤ちゃんとのふれあいが楽しみか、その理由	問５	小学生に対するイメージ（自由記述回答）
問６	赤ちゃんの保護者に聞いてみたいこと（自由記述回答）	問６	子育てをしていて楽しい・うれしいと思うことはあるか、どのような時か
問７	赤ちゃんに聞いてみたいこと（自由記述回答）	問７	子育てに対する不安や気になることはあるか、その内容、相談相手の有無、相談する相手
小学生事後アンケート		保護者事後アンケート	
問１	事業に参加して感じたこと（自由記述回答）	問１	事業に参加して感じたこと
問２	赤ちゃんの様子で気づいたこと（自由記述回答）	問２	事業に参加したよかったか、その理由
問３	赤ちゃんを見てどんな気持ちになったか（自由記述回答）	問３	赤ちゃんが事業に参加してよかったか、その理由
問４	赤ちゃんの様子を見られてよかったか、その理由	問４	小学生のイメージの変化の有無、その理由
問５	赤ちゃんの保護者と話したか、その内容	問５	小学生にとって赤ちゃんとの触れ合いはよいことか、その理由
問６	赤ちゃんの保護者と話してよかったか、その理由	問６	この事業にまた参加したいか、その理由
問７	赤ちゃんと聞いて思い浮かべること（自由記述回答）	問７	次回参加する場合、オンラインと対面どちらが良いか、その理由
問８	今後直接ふれあってみたいか、その理由	問８	事業に対する感想（自由記述回答）
問９	今回会った赤ちゃんとふれあえたら何がしたいか（自由記述回答）	問９	事業への要望・意見（自由記述回答）

11月実施　『大きくなったね』事業　アンケート項目

小学生事前アンケート		保護者事前アンケート	
問１	性別、きょうだいの数、自分がきょうだいの何番目か、ビデオ通話の頻度、ビデオ会議に対してどう思うか	問１	年齢、性別、赤ちゃんの月齢、きょうだいの数、第何子か、ビデオ通話の頻度
問２	６月事業後に赤ちゃんとふれあう機会があったか、どこでどのようなときにふれあったか、その時に何を思ったか	問２	事業に参加した回数、参加した小学校名、実施月
問３	６月事業後に赤ちゃんのことを意識するようになったか、それはどこでどんな時か	問３	小学生とのふれあいの頻度、その内容
問４	「赤ちゃん」と聞いて思い浮かべること（自由記述回答）	問４	事業に参加しようと思った動機
問５	授業でまた赤ちゃんに会うと聞いてどう思ったか（自由記述回答）	問５	小学生に対するイメージ（自由記述回答）
問６	赤ちゃんは６月と比べてどう大きくなっていると思うか（自由記述回答）	問６	子育てをしていて楽しい・うれしいと思うことはあるか、どのような時か
問７	オンラインで赤ちゃんや保護者に会って何がしたいか（自由記述回答）	問７	子育てに対する不安や気になることはあるか、その内容、相談相手の有無、相談する相手
問８	赤ちゃんの保護者に聞きたいことは何か（自由記述回答）		
小学生事後アンケート		保護者事後アンケート	
問１	赤ちゃんや保護者と会って感じたこと（自由記述回答）	問１	事業に参加したよかったか、その理由
問２	赤ちゃんは6月の時と比べてどのように大きくなっていたか（自由記述回答）	問２	赤ちゃんが事業に参加してよかったか、その理由
問３	赤ちゃんと聞いて思い浮かべること（自由記述回答）	問３	（6月参加者のみ）6月に比べ小学生に変化はあったか、どのような点か
問４	赤ちゃんや保護者とどんなかかわりができたか（自由記述回答）	問４	この事業にまた参加したいか、その理由
問５	赤ちゃんの保護者と話したか、その内容	問５	次回参加する場合オンラインと対面どちらが良いか、その理由
問６	今後赤ちゃんや保護者とふれあう場合、オンラインと対面どちらが良いか、その理由	問６	小学生にとって赤ちゃんとの触れ合いはよいことか、その理由
問７	これから赤ちゃんと出会ったらどのように関わりたいか（自由記述回答）	問７	小学校と交流して自身に変化があったか、どんなところか
		問８	事業への感想・要望・意見（自由記述回答）